

# 平成30年度の

# 農業を振り返る

## 稲作

平成30年産水稻の作況指数は「96」のやや不良となりました。5月の大雨、6月の低温、8月

下旬以降の台風等異常気象による登熟不良のため大きく減収となりました。

1等米比率は95.3%と県水準を上回る結果となりました。各生育ステージでの生育状況を

振り返りながら次年度への取り組みを紹介します。

### 「播種・育苗期」

今年の播種作業は平年より3日早い4月8日より始まりました。播種後、気温が平年より高く推移したため、遅く播種した一部のハウス内で高温障害が散見されました。



### 「田植え」

#### 生育初期

田植え作業最盛期は5月20日頃となりました。

5月18日に記録的な大雨があり、圃場や育苗ハウスの冠水、田植え後間もない苗が流される被害や、男鹿地区では土砂の流入、秋田地区では水路破損によつて水が入らず田植えが出来ない圃場も発生しました。強風も影響し、「代枯れ」症状が例年より多く散見されました。初期生育は田植えの遅れにより葉齢は3日遅れ、草丈・茎数は平年値でありました。

### 「生育中期」

#### 出穂期

6月上旬は気温が高く日照時間は多く経過しましたが、中旬に気温が低下して日照時間が少なかったことから、分げつ期の生育は抑制され、草丈短く、茎数は少なく経過しました。曇天多雨が続く、思い切った中干しができなく、有効茎歩合に影響がありました。

出穂は「あきたこまち」で8月2日頃、平年及び前年より1〜2日早い出穂となりました。

### 「登熟期・収穫期」

最終穂数は田植えの遅かった「あきたこまち」では目標値（1,680/坪）を下回った圃場がありました。

8月16日〜17日の強風により、男鹿地区をはじめとする沿岸部において塩害による白穂、擦れによる黒褐色が散見されました。その後8月23日〜25日の台風19・20号、9月4日〜5日の21号、10月1日の24号、10月7日の25号と相次ぐ台風上陸があったため、籾が振るい落されたと予想しています。

刈取り適期は「あきたこまち」で平年並みの9月中旬からの開始となりました。全体的な収量では、近年稀にみる収量不足の年となり、契約数量に対して進捗率88.4%と大きく下回る結果となりました。

